

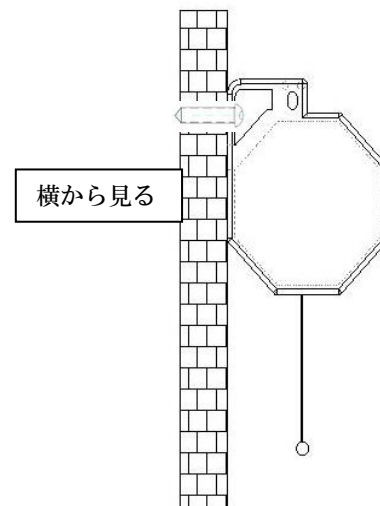
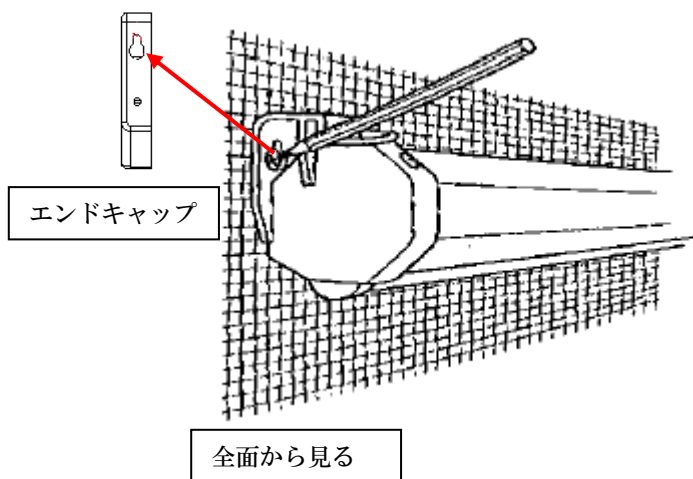
設置前準備

1. 注意しながら箱を開けて下さい
2. スクリーンは常に平と綺麗な場所に置いて下さい

設置手順

壁に設置する場合

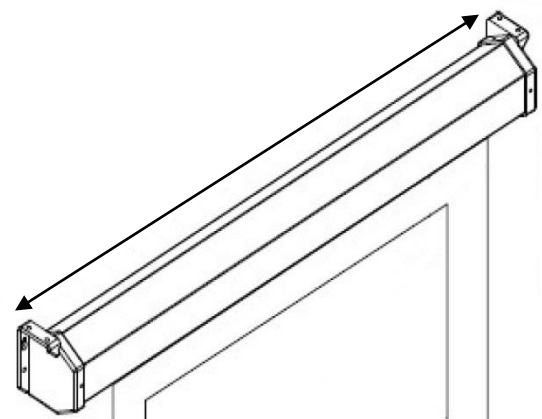
1. 両サイドエンドキャップの背面にあるキーホールの位置を確認
2. ネジを設置する場所をマーク
3. マークされた場所にネジを設置、ネジのヘッド部分は壁から約3mmの所まで閉める
4. スクリーン両サイドのキーホール部分をネジに設置して完成



天井に設置する場合

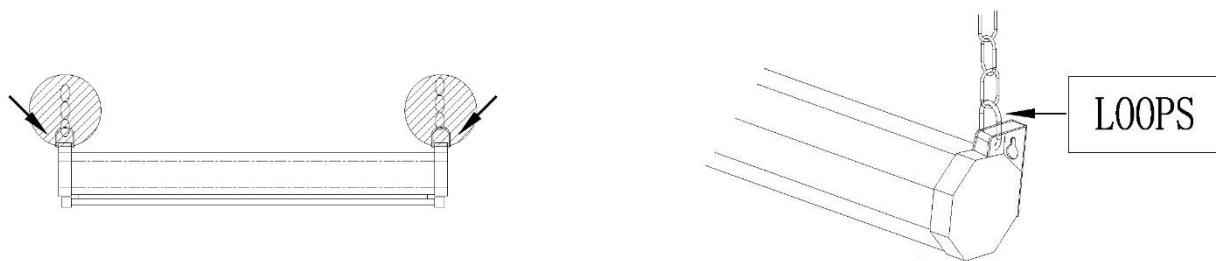
1. 両サイドエンドキャップの上部にあるホールの位置を確認
2. ネジを設置する場所をマーク
3. ネジをエンドキャップ上部のキーホールに入れ、マークされた場所に設置

★天井の補強工事は必ず行って下さい



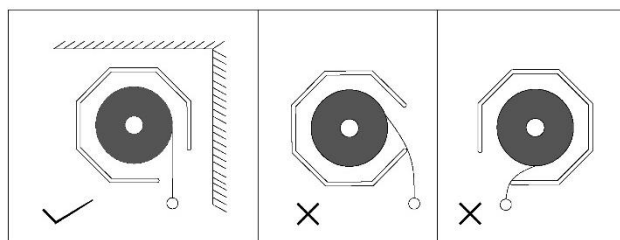
天井に吊らせて設置する場合 (チェーンやフックは付属していません)

1. チェーンやフックを両サイドエンドキャップの上についているループにつけて下さい



スクリーンの操作に関して

注意：スクリーンの出し入れは必ず垂直方向でお願い致します。出し入れする際にケースと当たる場合、生地にキズがつく可能性があります。

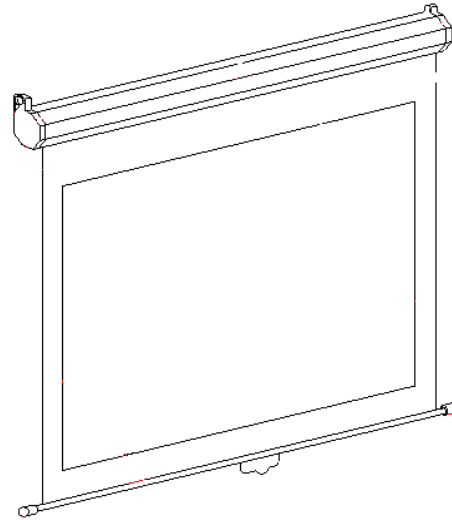
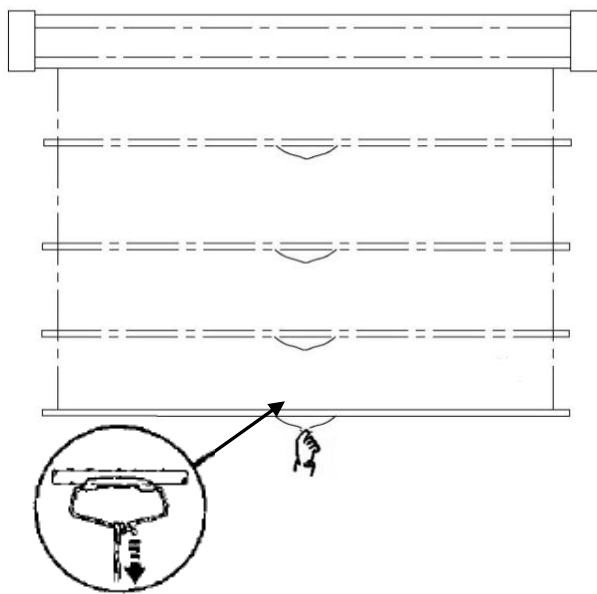


1. ストラップやハンドルから垂直角度でスクリーンを下に引っ張り出す。スクリーン下部分のバーやスクリーン画面を引っ張ったり、直接触れたりしないでください。スクリーンが損傷したり、保証が無効になる可能性があります。

★注意：内部の自動ロック機構システムにより、スクリーンが間隔を空けて停止してロックされます。

2. スクリーンを元の位置に戻したい場合は、スクリーンを 5cm 以上引き出し、画面が元に戻します。

★注意：収納時、常に 90 度の垂直角度で収納し、スクリーンが完全戻るまで手を離さないでください
急に離すとスクリーンが故障しやすくなります。



メンテナンス

柔らかい生地の布で少量な石鹼水でスクリーンの生地を拭いて下さい。
使用しないときは、ケース中に収納した方が長持ちと綺麗に保ちます。

注意:

取り付け方法にかかわらず、スクリーンを振動やひどく引っ張っても、ケースが緩んだり落下したりすることがないように、スクリーンをしっかりと支える必要があります。設置する際は必ず落下防止の補強工事を行って下さい。スクリーン本体の真っ下からスクリーンの出し入れをしないでください。

スクリーンの素材の免責事項:

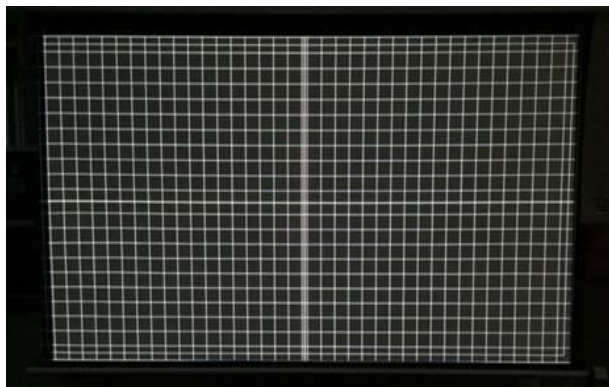
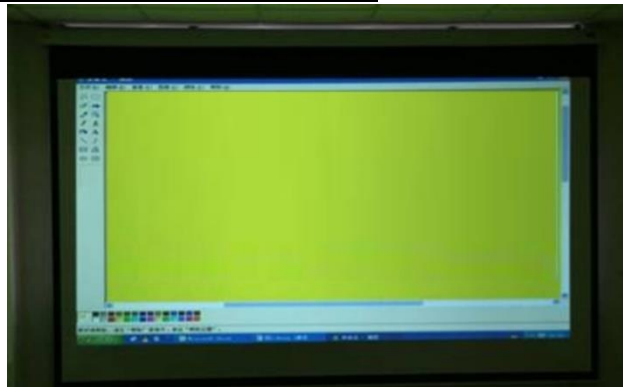
スクリーン生地は、出荷直後に限り、その表面に、目に見える水平の線が付いている場合があります。これは、「メモリーライン」と呼ばれる既知の現象です。メモリーラインは、スクリーンの在庫期間、スクリーン生地が巻き上げられたままの状態での保存されたことが原因で発生する現象です。この現象は、正常であり、かつ、簡単に直るものです。また、テンションなしのスクリーンでは、スクリーン生地の縁の部分がカールしていることがあります。これは主に気温が低いことに起因して発生する現象です。メモリーラインやカールを直すには、設置後の最初の数日間、部屋を暖かくした状態（24度以上）でスクリーンを下ろしたまま放置し、その後、通常の使用を開始してください。放置することでスクリーンの生地を伸ばし、メモリーラインやカールを直すことができます。

短焦点/超短焦点プロジェクターについて

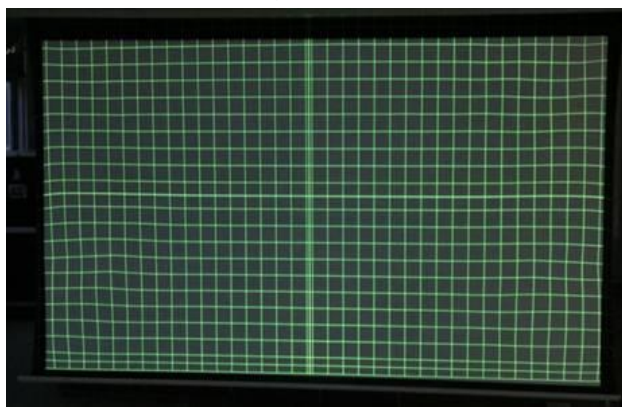
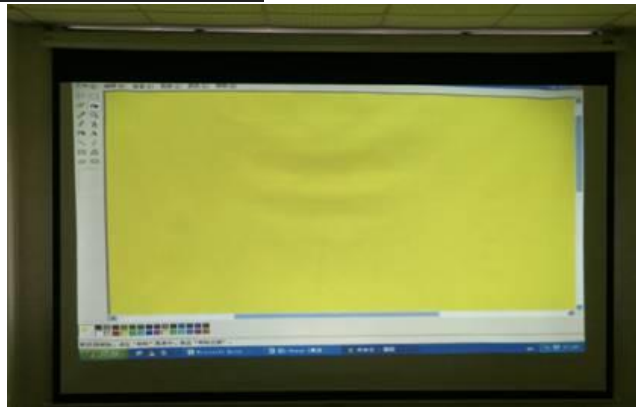
テンションタイプではないスクリーンで短焦点/超短焦点プロジェクターを使用する場合、表面にわずかな波で、画像の歪みが発生します。ご注意ください

下記はノーマルスローと短焦点プロジェクターを使用した場合の画像例

ノーマルスロープロジェクターは通常に映ります（画像の歪みは発生しない）



短焦点プロジェクターを使用した場合、画面に波状の画が映し出され、直線が曲がったりします



直射日光の免責事項

あらゆるメーカーのスクリーンは窓カーテンとして使用するようには設計されておらず、直射日光に当てないでください。長時間の日射にさらされると合成材料が破壊され、そのような損傷は当社の標準保証の対象外となります。

以下の例を参照してください。

